

# 遺伝子障害 研究成果を報告

## 広島原医研が国際シンポ



国内外の研究者が参加した原医研の国際シンポジウム

広島大原爆放射線医学研究所(原医研)が招くがん以外の病気をテーマにした国際シンポジウムを、広島市は3日、遺伝子の障害

南区の広島大医学部広仁会館で開いた。

国内外の放射線医学、遺伝学などの専門家や医師たち約80人が出席した。米ボストン小児病院のエドワード・ギルモア医師は、重症の遺伝性小頭症患者について「患者には、DNAの傷を修復する特定の遺伝子に共通の異常がみられた」と報告。遺伝性小頭症と同様に、詳しい発症メカニズムが分かっている原爆小頭症の解明につながる可能性を示した。

シンポは、「共同利用・共同研究拠点」として国から認定されたのを記念し、原医研が

企画した。同拠点は、特定分野に秀でた大学の研究機関が対象。原医研は「放射線影響・医科学研究拠点」に選ばれた。シンポは4日まで。一般参加はできない。(金崎由美)

広島大原爆放射線医学研究所(原医研)の本田浩章教授(49)が、国際研究促進審議会(IRPC・本部インド)の2010年国際金賞に選ばれた。慢性骨髄性白血病のモデルマウスを作り、発症の仕組みの解明を進めた功績が評価され



本田浩章教授

### 白血病モデルマウス作成

## 本田教授(原医研)に国際賞

た。3日、広島市南区の広仁会館で表彰式があった。選考委員の放射線腫瘍医トーマス・コイル(インペリアル理工大)が金メダルを授与した。本田教授は「いろいろな国の研究者に使って、白血病患者の役にたたい」と喜んでい

モデルマウスは従来、1匹ずつ骨髄移植で作るため手間が掛かっていた。本田教授は「いろいろな国の研究者に使って、白血病患者の役にたたい」と喜んでい

マウスを作ることに成功。マウスは米国や中国でも研究に利用されている。この日の原医研第1回国際シンポジウムの目印。 (衣川圭)